

平成 27 年度の主な事業報告

(1 枚目)
社会福祉法人 希望の杜福祉会

社会福祉事業

はじめに

“社会福祉法”の改正に伴い、社会福祉事業の充実・拡大とともに、地域貢献としての公益的な取り組みが求められている。また、平成 29 年 4 月 1 日からはガバナンス向上のために理事・評議員会の役割・構成員の変更が必要になるなど様々な対応が必要になる。行政等からの情報収集に努めたい。

法人全体の事業報告：具体的課題と取り組み状況

“障がい者の雇用・日中活動の場の提供と、所得保障できる賃金の支給”という法人本来の事業目的の追求のための経営状況の改善

- ・授産事業の赤字に関して、事業所単位で内容の点検・改善策の検討を行う計画を立てたが、1 部事業所での実施にとどまったこともあり、顕著な効果はでなかった。
- ・福祉事業の赤字に関して、適切な処遇による利用者・利用日数の増を図ったが、収益の改善は 1 部事業所のみにとどまった。

将来構想の検討

- ・経営改善委員会で検討予定だったが、委員会の活動が赤字解消のための現状分析の時点で詰まってしまい、将来構想の議論までにはいたらなかった。中・長期計画など将来構想に絞って検討する体制が必要である。

人材育成のための研修

- ・研修委員会を中心に一貫した研修計画作りを検討し、初任者研修のカリキュラムをまとめた。
- ・“法人の歴史と理念”や“虐待防止研修”、“接遇研修”等の基本的研修を実施した。
- ・中堅・監督者研修を実施できなかった。法人理念の徹底といった研修の実践とともに今後の課題である。

避難指示解除後の柵葉町

- ・地域貢献事業として障がい者・高齢者の憩いの場として“柵葉 結いの里”を開所した。
- ・帰還者が少なく、障がい福祉サービス事業の再開は困難な為、法人独自予算で運営せざるを得ない。
- ・今後に関しては、利用人員の変化があれば次の事業展開を考えることとする。

けやき共同作業所(就労継続支援B型主たる事業所)・けやき鹿島(就労継続支援B型従たる事業所)

けやき共同作業所：市委託配食弁当、宅配弁当、惣菜等製造販売、輪ゴムの箱詰め等下請

- ・平成 26 年度に引き続き弁当の注文数が増えた。
- ・利用者の仕事に畑作業を取り入れた。(収穫された野菜を弁当の食材として使用)
- ・新たな下請け作業として“袋作り”と、行政からの委託作業として敬老記念品の“イーゼル作り”を請け負う。
- ・相談支援事業所や就業・生活支援センターなどの関係機関との連携による支援した。

けやき鹿島：菓子製造販売、発送

- ・平成 25 年度まで弁当製造を行っていたが、平成 26 年度法人全体の事業の見直しにより休止、平成 27 年度より“社のどーナツ”より引き継いだ菓子製造を行う場として再開した。
- ・新商品の開発は行っていたが、商品化にはいたらなかった。
- ・定期的に行事を開催し、職員・利用者が交流できる場を設けた。
- ・他機関と連携し、3 名の利用者が一般就労することが出来た。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた作業の提供を行った。

平成 27 年度の主な事業報告

(2 枚目)
社会福祉法人 希望の杜福祉会

社会福祉事業

工房けやき(就労継続支援B型)・けやき茶屋(出張所)

工房けやき：豆腐等製造販売、惣菜の販売

- ・配達、ご近所販売など顧客の高齢化が進み、売り上げが減少傾向にある。
- ・J A、飲食店への営業や行商ルートの増加などで一定の成果を上げることができた。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた作業の提供を行った。

けやき茶屋：豆腐販売、惣菜の販売

- ・季節ごとに惣菜メニューを変えることが出来ず、固定したメニューでの営業になってしまった。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた作業の提供を行った。

あとりえ北山・杜のどーなつ・ふれんず北山(多機能型事業所/就労継続支援B型・同左・生活訓練)

あとりえ北山：菓子・惣菜・弁当の製造販売、古紙回収、下請事業等

- ・販売ルートの見直しにより、効率的に販売することが出来た。
- ・イベントなどに積極的に参加して売上の確保ができた。
- ・平日の売上を伸ばすとともに、菓子類等の商品数を増やしていく必要がある。
- ・定期的に行事を開催し、職員・利用者が交流できる場を設けた。
- ・個別支援に計画に基づき、一人ひとりに応じた作業指導及び支援を行った。

杜のどーなつ：ドーナツ・サンドウィッチ製造販売、法人商品の店舗販売、下請事業

- ・平成 26 年度まで菓子の製造販売を行っていたが、法人全体の事業の見直しにより、平成 27 年度より製造部門の大部分を“けやき鹿島”に移動し、一部の菓子製造と店舗販売、下請を行う場として再編成した。
- ・新商品としてサンドウィッチの製造を開始し、ある程度の収入が見込まれるようになった。
- ・揚げドーナツや、店舗におけるカフェメニューの充実が図れなかった。
- ・下請作業に習熟し、納期に遅れず治められるようになった。
- ・定期的に行事を開催し、職員・利用者が交流できる場を設けた。
- ・他機関と連携し、3名の利用者が一般就労することが出来た。
- ・個別支援に計画に基づき、一人ひとりに応じた作業指導及び支援を行った。

ふれんず北山：生活支援、体力増進、社会資源利用、創作活動、教養講座

- ・個別支援計画の作成により無理のない支援を行うことができた。
- ・生活支援、体力増進、社会資源利用、創作活動、教養講座等といったの生活訓練プログラムを通し、利用者のスキル向上に努めた。
- ・個人面接随時相談により個々の悩みを聞き、利用者とのコミュニケーションが取れた。

ふたばの里(就労継続支援B型)

事業内容：菓子製造販売、手工芸品の製造販売、古紙の回収、下請事業等

- ・下請け作業が定期的に入るようになり、個々の作業が固定化し作業効率も上がった。
- ・古紙回収作業では、PR効果もあり個人からの依頼が増えた。
- ・ラスク製造に関しては、注文に応じての製造に切り替えた。
- ・小物製作は、売れる商品開発に努めてきた。
- ・個別支援計画に基づく利用者個人の能力に応じた支援を提供した。
- ・余暇活動憩いの場所としての役割も担い利用者の無理のない通所につなげていけるよう努めた。
- ・計画相談が入ることにより関係者との連携がより密になり、本人にあったサービスの提供が可能になった。

平成 27 年度の主な事業報告

(3 枚目)
社会福祉法人 希望の杜福祉社会

社会福祉事業

グリーンアップルズホーム(共同生活援助) 定員 24 名 入居者 22 名

きぼうの家：地域生活サポート、食事提供、服薬管理、日常支援、通院同行等

①金銭管理サービスの終了に伴う支援内容の変更

・希望の杜福祉社会の方針として、金銭管理サービスの実施は終了となった。その為、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業やNPO法人そよ風ネットいわきの金銭管理サービス、若しくは保護者による管理等へ、支援の移行に取り組み、居室へ鍵を取り付けた。しかし、通帳や印鑑等の預かりや出納は外部機関となったが、現金管理の支援の必要性は残ることから、新たに現金の管理規程を設け契約を結び支援していた。12月末に県からの通達により、管理規定・様式下での管理支援体制への移行中である。

②賃貸物件の老朽化への対応

・代替物件を捜しているものの、見つかっていない。どこまで修繕で対応するのかを含め、今後の優先課題である。

③事務所移転への対応

・移転により事務所が各ホームから遠くなった為、職員が毎日各ホームを回る体制にした。

④世話人不足への対応

・9月から世話人が1名新規採用となり、複数個所を掛け持ちする回数が減った。

⑤入居者の高齢化への対応

・60歳以上の入所者が50%、65歳以上で23%と高齢化が進んでいる。介護認定を受けた入所者も複数名いるが介護度が進行していて、全般に難しい対応が必要になってきている。

スペースけやき(地域活動支援センター)

事業内容：地域における活動支援、憩いの場の提供

・創作的活動や生産活動、地域活動、体力づくり、利用者間の交流といった基礎的な支援や、ウェルネス体操や当事者研究等の機能強化支援、退院者の地域生活支援や家族会活動の支援などを行った。

・利用者の状況に応じた対応として、地域活動支援センターから就労継続支援B型や生活訓練への移行を支援した。

・利用者の高齢化に応じた対応として、介護保険のデイサービスへとつなげた。

・相双地区からの避難者(浪江町、大熊町から3名)の受入。

・当事者研究実行委員会や家族会活動へ参加し、交流を持った。

スペースけやき(指定一般・指定特定相談支援事業)

指定一般相談支援事業所 スペースけやき：地域移行支援、地域定着支援

・3つの精神科病院より地域移行支援として5名の依頼を受け、2名の退院を支援、現在3名を引き続き支援中である。

指定特定相談支援事業所 スペースけやき：サービス利用計画作成及びモニタリング

・新規の計画作成依頼を積極的に受けた。27年度は新規で48件の計画作成した。

・計画相談の請求件数は月40件を目標に取り組んだが、平均33件と目標には届かなかった。

・計画相談のスケジュール管理体制を構築したことで、利用者定期的に継続的に関われるようになり、サービスの利用調整を必要に応じ実施し計画相談の質を高めるよう努めた。

・本人や家族、各地区センターからの計画相談の新規の依頼を積極的に受け入れた。

結いの里(指定特定相談支援事業)

指定特定相談支援事業所 結いの里：サービス利用計画作成及びモニタリング

・いわき市に避難してきている相双地区の障がい者に対して、サービス利用計画の作成と、そのモニタリングを行った。

平成 27 年度の主な事業報告

(4 枚目)
社会福祉法人 希望の杜福祉社会

公益事業

スペースけやき(委託相談支援事業) いわき市から委託を受ける

事業内容：一般相談、自立支援協議会への参加、研修の開催、認定調査等

- ・いわき市地域自立支援協議会における地域生活支援部会を担当し、下記の内容を協議した。
障がい者の地域生活に関する課題の検討
グループホームに関する課題の検討
保証制度に関する検討

結いの里(委託相談支援事業) 檜葉・広野・富岡・大熊・双葉・浪江町、川内村 から委託を受ける

事業内容：一般相談、双葉地方地域自立支援協議会への参加、認定調査等

- ・双葉地方地域自立支援協議会の連絡会・くらし部会・つながる部会に参加。
- ・個別支援会議を開催し、本人にとってよりよい支援となるよう関係機関の調整を図った。
- ・研修会へ参加し、相談支援従事者としての資質の向上に努めた。
- ・関係機関が主催する会議へ出席し、圏域課題の協議を行ない、行政へ働きかけた。

福島県相談支援充実・強化事業(被災地における障がい福祉サービス基盤整備事業)

事業内容：被災した障がい者の相談支援等

- ・住民支援として、被災した障がい者を対象とした福祉サービス利用相談を実施した。
- ・事業者支援として、被災した事業所の相談支援活動支援を実施した。
- ・避難元町村へ対象者の支援経過報告を実施し、避難先でのサービス等利用状況を集約するなどの協力を行った。
- ・今年度で事業が終了するため、年度内の相談対応の完結を目指した。また、必要な場合は他事業所への引継ぎを行った。

憩いの家(地域支え合い体制作り助成事業) 定員9名(入居8 ショートステイ1) 入居者7名

事業内容：仮設のグループホーム、地域生活サポート、服薬・金銭管理、日常支援、通院同行等

- ・被災障がい者等に対して、地域における住まいの場を提供した。
- ・各種ルールの周知や情報提供、服薬管理等の生活支援、家族との連絡調整等を通し、地域生活の継続を支援した。
- ・清掃活動や各種イベントへの参加等を通し、地域との交流を図った。
- ・服薬管理や金銭管理への助言、必要な場合の通院同行等を通し、日常生活を支援した。
- ・世話人の協力を得ながら見守り支援、健康管理を行い、定期的なミーティングを通し、様々な問題をその都度解決した。
- ・入院した入居者に対し、面会、外出動向、外泊送迎等、病院との連絡調整も含み支援
- ・“地域支え合い体制作り助成事業”が今年度で終了し、来年度からは“仮設住宅サポート拠点運営事業”下での事業実施となった。

のんびりハウス(地域支え合い体制作り助成事業)

事業内容：障がい児の預り事業

- ・平日の放課後及び長期休暇において双葉郡等から避難している障がい児を対象に、家族の就労支援及びレスパイトを目的とした預かり事業の実施。
- ・利用障がい児の家族に対する相談支援を実施。
- ・放課後及び長期休暇における利用児童の他サービス利用調整の実施。
- ・“地域支え合い体制作り助成事業”の今年度での終了とともに、事業所を閉じる予定だったが、関係機関会議において、事業終了に伴う利用児童の受け入れ先確保が困難な状況が明らかとなり、事業継続が求められた。上記憩いの家と同様に、平成28年度からは、“仮設住宅サポート拠点運営事業”下での事業実施となる。

収益事業

無し